

## 卒業プレゼンテーション・レポート作成要領

(2010年9月 地球市民学科)

卒業プレゼンテーションを行おうとする者は、次の要領で、所定の期日までに前提レポートを提出すること。

**締め切り**：大学の指示に従うこと

**提出先**：学務課および地球市民学科（詳細は別紙「卒業プレゼンテーションの題目および最終レポートに関する概要」に従うこと）

**字数**：12000字以上（図表、絵・写真、文献・資料リストなどは除いて数えること）。

A4用紙サイズ、40字30行、余白上35mm, 左右下30mm。

英語の場合は5000words以上（図表他を除く）。

A4サイズ、40字18行、10.5ポイント、余白上35mm, 左右下30mm。

レポートはすべて文章でつなげる。語句の羅列や箇条書きふうのものであってはならない。所定の表紙を付けて出し、受け取りをもらうこと。

### 書き方：

1) テーマは最後に提出したものを変えないこと。

2) 内部の構成は、問題意識、仮説、サーベイ（研究・調査：文献・資料サーベイ、フィールド・サーベイ）、サーベイ内容、分析、発見、結論、の順番でも良いが、できるだけもっと内容を表すものを考えてみる。

**例**（カッコのなかは省略しても良い）：

地球市民の生き方：NGO「〇〇」の活動をとおして（テーマ）

- 1 なぜ生き方が重要か？（問題意識）
- 2 自覚的な生き方をすれば輝いてくる（仮説）
- 3 NGO「〇〇」の結成と活動（文献・資料のサーベイから）
- 4 創意を發揮すれば周りの人も認めてくれる：活動家たちの事例  
（面接調査、フィールド・サーベイの結果から）
- 5 相互作用をつうじた活動で人はたがいに輝いてくる（分析）
- 6 内気だったAさんが生き生きとしてきた（発見）
- 7 人はやりがいを見いだせば輝く（結論）

3) この程度のレポートは大げさに章、節、などとしなくともよい。1, 2, 3,...などで章あるいは節に相当するものをわけ、そのなかを分ける時は1)、2)、3)...、さらにそのなかを分ける時は(1)、(2)、(3)...、などとする。

4) 文章は適宜段落（パラグラフ）に区切り、段落の最初は1字空けること。

5) 文献・資料や人の話などからの引用は、必要最小限度でとどめ、「」でくくって引用であることを明示すること。人の意見を自分の意見であるかのように主張してはならない。

6) 引用や言及を示す注は、レポートの最後に文献・資料リストがきちんとついていれば、(国境なき医師団, 2010,09.18) (庄司, 2008, p.16) (デランティ, 2008, p.134) などの形で文中に挿入すればよい。

7) それ以上の注は脚注として各ページの下に入れること。読む立場からしても、それがもっとも読みやすい。

8) 最後に必ず文献・資料リストを掲げること。書き方はこれまでの方式に従う。以下を参照。

### ホームページ・文献・資料の挙げ方 (リストの作り方)

(ホームページの場合はいきなり [http...](#) を書かず、必ずページの著者と最近の更新日、分からない場合には見た日付、およびタイトルをかかげること。順番は、著者の姓で日本語アイウ順、英語 ABC 順にする。表記も必ず姓を先に出すこと。下記参照。)

アムネスティ・インターナショナル・ジャパン, 2010.09.18, 「初めてきた方へ」  
<http://www.amnesty.or.jp>

国境なき医師団, 2010.08.17 「パキスタン地震・緊急支援」 <http://www.wsf.or.jp/>

庄司興吉, 2008, 「現代社会論としての地球社会論：その必要性・輪郭・課題」『社会学評論』59-1, 日本社会学会。

庄司興吉, 2009, 『地球市民学を創る：地球社会の危機と変革のなかで』東信堂

地球市民学研究会編, 2006, 『地球市民学のすすめ』清泉女子大学地球市民学科。

デランティ, G. (佐藤康行訳), 2004, 『グローバル時代のシティズンシップ：新しい社会理論の地平』日本経済評論社

Go, Julian, 2003, 'A Globalizing Constitutionalism? : views from the postcolony, 1945-2000,' *International Sociology*, 18-1, Sage Publications.

Delanty, G., 2000, *Citizenship in a Global Age*, Open University Press. (デランティ, G., 佐藤康行訳, 2004, 『グローバル時代のシティズンシップ：新しい社会理論の地平』日本経済評論社) ←上のデランティの文献を原著まであげる場合はこのようにする。

Shoji, K., 2010, "Sociology for Global Citizens: A Preliminary Approach," *Bulletin of Seisen University, Research Institute for Cultural Sciences*, Vol. 31. (『清泉女子大学人文科学研究所紀要』第31号, 清泉女子大学人文科学研究所)